

平成30年5月23日、西濃総合庁舎にて西濃地区公立小中学校事務職員研修会を行いました。そのときの様子をまとめましたので、ご一読をお願いします。

研修① 講話『学校を取り巻く課題と事務職員への期待』

西濃教育事務所 所長 寺田 圭子 様



2012年、宮城県南三陸町の志津川中学校へ学習支援ボランティアに行った。東日本大震災の1年半後で、仲間と一緒に「私にもできることは何だろう」「私にしかできないことは何だろう」と2つの視点から考え、「教える」というボランティアを行った。この時、中学生が、目を輝かせて一生懸命勉強をする姿を見て、事務研のテーマである「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」の「豊かな育ち」はどんな場でも実現できるということを思い出す。出席簿の訂正方法や、怪我をした生徒の緊急搬送時など、これまでいろいろな場で事務職員に支えられてきた。

〈西濃管内の実態と国の動き〉

昨年から今年にかけて、西濃管内の児童生徒数が685人減ったことにより、学級数が減り、教諭の数も減っている。小学校は全体的に小規模化している。中学校も小規模化しているが、700人を超える学校もあり、アンバランスな状況になっている。教諭の状況は、学級数が22学級減ったことにより、教諭数は38人減り、学級数減が直接教諭数減に結びついてしまっている。これがこれからの時代の大きな特徴である。西濃の教諭の年齢構成は、20代が22.2%と大変高い状況である。事務職員の年齢構成の特徴は、40代前半のキャリアを持った人とベテランの人の2段階層で若い人を支えている。この構成が教諭と違っている。

児童生徒の学力状況について、子どもたちに自己有用感や学習に前向きに取り組む気持ちを育てていただいているので、少しずつ正答率が上がってきている。基礎学力を問う問題や単なる知識を問う問題でも、思考的な問題が多くなっている。そのような力を伸ばすことが、子ども達の10年後20年後の未来につながるということで、西濃教育事務所でも「西濃の授業これだけは！！～〇〇したいを生み出す授業改善～」に何年か前から取り組んでいる。それぞれの学校で、どこかに一番力点をおいて授業を構築していただくようお願いしている。新しい学習指導要領が始まって、「主体的・対話的・深い学び」がキーワードになっている。

課題として、家で宿題をする小学生は90%、中学生は70%の子がいるが、自分で復習をしたり、自ら学習をする子は少ない。職員室に来る子どもたちに「宿題がんばった？」から「家で自主勉強した？」と声をかけると自主学習ノートを持ってくるかもしれない。ぜひ、励ましの声かけを。

近年は、小学校で暴力行為が増えている。中学校では、ネットトラブルが増えている。小さなケンカや言い合いで悲しい思いをした子がいないか等の情報をもらえるのも大変助かっている。

学校を取り巻く国の動きで、「家庭教育の重要性」「学校を核とした地域力の強化」「法改正」の大

きく3つの動きがある。家庭教育の大切さは以前から言われていたが、今は地域で家庭教育を応援しようという取組が始まっている。学校、地域、家庭の三者の連携を進めるためには、常に学校が地域のコミュニティの核となる。だからコミュニティスクールと呼ばれる。学校を核として地域の力を高めていく。一億総活躍社会、地方創生の一つ。コミュニティスクールをすでに実施している市町では、事務職員が学校と地域とのつなぎ役になったり、コミュニティスクールの中の学校事務職員はどうあるかを考えてくださっていると聞いている。

〈働き方改革は〇〇のため〉

学校における働き方改革について、文部科学省はチームで行っていきと言っている。事務職員は働き方改革をいっしょになって進めるキーパーソンとして、学校の教職員全員で、学校を支える全員を笑顔にしてほしい。

学校を少しずつ変えていくために、事務職員と一緒に考え、一緒に取り組んでほしい。行政職のプロとして見たときに、教職員の働き方について学校に提言してほしい。目指すところは、「子どもたちが豊かに育つ」なので、そこをみんなでやっていきたい。子どもたちを幸せにする、学校で働く教職員みんな「学校で働いてよかった」と思えることが目的である。

「今日遅くまで残ったから、明日は調整して定時に帰ろう」というやりくりをするためには、自分の働き方をちゃんと知らなければならない。労働調査の結果を見ると、建設業や運輸業の方の残業がかなり改善をされていた。学校の長時間過密労働は異常である。1ヶ月の時間外が60時間以上働いていたら異常と思ってほしい。事務職員自身の健康も大事にしてほしいが、客観的に見て働きすぎと思う教職員がいたら心の支えになってほしい。

忙しすぎると本当にやりたいことができず、何のために先生になったのかと揺れ動いている先生もたくさんいる。先生に憧れて先生になりたいという若者たちが減って、教職員の質が低下すると言われている。時間外労働の弊害が、憧れを持って先生や講師になった方の高い志をどこかでゆがめてしまうことにならないか。

1年目の先生の74%が、すごく職場の雰囲気がいいと答えた。職場の雰囲気とは職員室の雰囲気。職員室にいつもいる事務職員も職場の雰囲気をつくってくれることで、初任者たちも「岐阜県の先生になってよかった」と思っている。若手の先生を支えているのも事務職員だとお伝えしたいと思っている。

事務職のプロは仕事を「見える化」しようとする。これは働き方改革の基になる。働き方改革の基は事務職員がノウハウを持っていると思うので、ぜひ教えてほしい。

〈事務職員の皆さんへ 感謝と期待を込めて〉

働き方改革のキーパーソンは事務職員だと思っている。先生の仕事や他の人の仕事を事務職員が請け負うということではなく、学校の中にあるいろいろな仕事の中に入り込んで、コーディネートしてほしい。「従事する」とは上司から言われたことをやるという仕事だが、「つかさどる」は事務職員が参画できることである。平成30年2月9日、文部科学省事務次官の通知、働き方改革の目的は、「豊かな育ち」である。その中でも、事務職員に働き方改革のキーパーソンになってほしいと書いてあり、法改正もされている。職員室にいて客観的に教員を見ている存在は事務職員しかいない。費用対効果など、行政的視点を持つ存在は事務職員しかいない。共同実施はミスを減らすことのみではない。事務職員にしかできないことがあり、文部科学省事務次官の通知にも事務職員への期待が書いてある。「管理職」や「校長」「教頭」という文言より「事務職員」という文言のほうが一番多く出てくる。このことから、キーパーソンと言える。学校における業務改善を今回いろいろ見てき

だが、事務職員がより主体的に積極的に業務改善に参画する、校務運営に参画する、業務改善に事務職員の力を貸してほしい。事務職員が働き方改革に参画したときに、どうコーディネートしていただけるかが、みんなで子どもたちを育てることになる。地域ボランティアとの連絡調整を、今までは担当の先生や教頭がやっていたが、地域とのつながりが強くなればなるほど、学校事務職員が、この窓口になってほしい。積極的に参画してほしいと文部科学省の通知にも書いてある。すでに十分にやっただけではないが、ただ事務処理をするだけではなく、もっと子どもたちの生活の中に入っていき「つかさどる」になったのでできる。

学校行事にも積極的に参画してほしい。例えば、最初の企画運営・交渉（ネゴシエーターとして）から入ってほしい。進路指導にも事務職員の名前がある。職務上、教育活動や調査書の作成はできないが、企業の就職先の情報集めや窓口になることも得意分野ではないか。学校で唯一の行政職として事務職員が担当することで、もっと高いレベルにならないか。その先には「豊かな育ち」がある。だからといって事務職員の仕事が多くなることがあっては、私たちの願いは一つにならない。それぞれの強みを生かして、本当のチーム学校、事務職員も含めたチーム学校で、子どもたちと事務職員、全ての教職員の幸せに結びついていくといい。

管理職も教育事務所の職員も、願いは一つ。職種は違うが、子どもたちの幸せを願い、子どもたちのためにがんばる仲間だからこそ、「私にもできること、私にしかできないこと」をぜひ行政職のプロとして助けてほしい。

研修② 事務指導

西濃教育事務所 学校人事係 桐山 純英 様



働き方改革の一環で、早く帰る日を水曜日と位置付けて実践いただきありがたい。初任者は早く帰りたいと思っていても言えない。初任者に「一緒に学校を出よう」「悩みはない？」など是非声をかけてあげてほしい。私自身も初任のとき事務の先生の言葉に救われた経験がある。

教職員の働き方改革は、教員だけでなく、事務職員や栄養職員、校務員、学校にかかわる全ての教職員で取り組むことが大切である。

学校訪問時、校長からチーム学校や〇〇一丸・一枚岩となってというフレーズをよく聞く。「事務職員もこどものよさ見つけを伝える機会はありますか？」と尋ねることがある。管理職も全教職員で取り組むことに全力をあげているので、安心してこの改革に取り組んでほしい。

現在、三つの柱で「不祥事」を根絶し、信頼される学校組織と教職員をめざしている。

①パワハラ防止

パワハラ等を感じたり見たりした時、校内では伝えるのが難しい場合、西濃教育事務所に伝えてほしい。

②資質向上の取組

教職員の資質向上に取り組んでいるが、「人間性」の向上のためにどんなことをしているか？早く帰ったら何をやるか？そこを考えてみる大切である。

③勤務の適正化

自分の勤務時間を正確に知っていることが大切である。時間外の申請がなされていないという話も聞いているが、時間外勤務をしたら申請してほしい。管理職にも伝えていく。

重点項目について

月によって重点項目は変わっていくが、内容的に関連があり年間を通して意味あること。感じたことを積極的に声にしてほしい。

例えば、1月の重点は【個人情報の厳重な取扱い】である。メールを最初にも開くことも多い事務職員が、送受信されるメールに疑問点を持ったら声に出してほしい。ウィルスメールにも注意を払ってほしい。大いに期待している。

管理調整係 係長 チーフ 佐々木 浩 様

①管理調整係では常に改善できるような観点で事務処理を心がけている。

- ・前年度末（3月31日）における社会保険証の速やかな回収
- ・通勤手当などの諸手当の認定について5月の給与に反映させるなど、計画的に処理を進めることができた。

②要請訪問について 当日配布資料あり。

年度の途中の書類の点検の手伝いや日頃の事務処理についての疑問点、改善に関する相談などに対応できるので是非 主体的に要請し活用してほしい。

③県定期監査について

予備監査が9/4に決定。管内各小中各3校が指定される。該当校には事前点検の連絡有り。

管理調整係 係長 税所 淳子 様

①年度末年度初めの社会保険事務がスムーズにすすめることができた。

②別枠旅費の提出の際 総括表は不要 合算請求書に職員番号の記入が必要。

③非常勤講師実績簿 記載誤りの多い点について、当日配布資料あり。

- ・住所欄に違う職員の住所が記載されている。
- ・担当教科名の記載がない。すべての教科を担当している場合は「全教科」と記載する。
- ・授業の開始時間 終了時間の記載ミスに注意すること。
- ・その他勤務時間枠（朝の会等）に勤務がないのに授業時間を記載してある。
- ・本人の印もれがある。（特に最後の勤務日）
- ・授業に対して準備の時間数が多い場合注意が必要。（準備は授業の4分の1等の基準有）。

管理調整係 主任 桑原 昌夫 様

①旅費の配分について

今年度は旅費を2回に分けて配分する。5月に8割程度配分、8月下旬に残りを配分予定。

調査は、10月上旬執行状況調査1回のみ。

不足が見込まれる場合は、この調査で確実に見込んでいただく。

予算あつての旅行命令となるため、計画的な旅費の執行に心がけて欲しい。

②旅費の請求について

有料駐車場の利用がある場合、領収証の取り忘れや紛失がないよう改めて職員に周知を。

高速道路を利用し、目的地最寄りのインターを越えて走行してしまった場合（いわゆる乗り過ぎ）は、領収書や利用証明書どおりの金額での請求は認められない。

③学校訪問について

今年度は25校を訪問予定。要請訪問と併せて、少しでも小中学校や事務職員さんの支援につながるよう努めていきたい。

管理調整係 主事 加藤 雅隆 様

①扶養手当における収入超過について

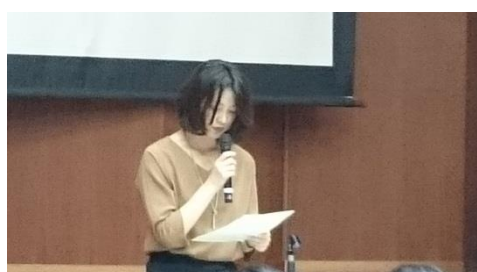
事業所得が年度途中で増え、確定申告をした時点で収入が130万円を超えていたが、職員からの届出がなく新年度に入って発覚した事案があった。過年度戻入を未然に防ぐためにも収入や所得に変化がある場合は速やかに届けるよう職員に周知してほしい。

②扶養手当における家族の収入状況の把握について

扶養しようとする家族について、無職無収入の申立書を添付して申請したが、実際は収入があったという事案があった。虚偽の申請となりかねないため、家族の収入状況を正確に把握した上で申請するよう職員に周知してほしい。

研修③ 研究計画について

研究推進委員長 大垣市立青墓小学校 前川 美由紀



研究推進委員会では、学校事務職員に求められる資質能力や専門性を高め、確かな力量を身につける「実務力」、豊かな人間性を養い、教職員としてのあり方を考える「人間力」、学校をとりまく様々な変化に対応できる「対応力」の3つの力にわけ、その中の「対応力」に焦点をあて、長期研究計画を企画・

運営をしている。

第3次長期研究計画のテーマを「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を目標に、「チームの中で力を発揮できる事務職員を目指そう」と設定した。

29年4月の学校教育法の改正により、事務職員の職務が改められ、自らの専門性を発揮できるように、教職員が専門スタッフ等と連携・分担する「チーム」として学校を整備する必要性が求められている。

学校の課題が複雑化・多様化したことに伴い、組織的に学校運営を行うことができるように、マネジメント機能の強化が重要であると考えられる。また、総務・財務面の重要性も増していることから、管理職を総務・財務面で補佐する必要性も大きくなっている。このような観点から、「マネジメント」をキーワードに第3次長期研究計画を立案し、今年度は「タイムマネジメント」について研究をすることとした。

昨年度の研修で、組織マネジメントに対する一定の理解が進んだが、「どのようにマネジメントをいかしていけばよいのか？」や「漠然としている」といった意見もあり、組織マネジメントを意識する前に、これを支えるセルフマネジメントを意識した仕事をする必要があると考えた。

日々行う仕事の内容は、周囲と連携して進めることが必要だが、関わる人が増えるほど、不確実性が増してしまう。限られた時間の中で、業務遂行力を高めるにはタイムマネジメントは不可欠である。自分の仕事を洗い出し、整理をした上で、管理をすることで、仕事を効率よく進め、時間の無駄をなくす。そこから、時間を生み出すことによって、情報収集を行うことができ深く考えることができる。

このようにタイムマネジメントで増えたリソースを土台に、「財務マネジメント」「情報マネジメント」と学びを進め、さらに専門性の高いマネジメント能力の強化を図りたい。

秋の研修会は実践発表による提案とグループ交流型の研修を行う予定である。

◇総会 会長あいさつ

垂井町立東小学校 吉田 喜久子



昨年度、職務内容の改正で「事務職員は事務に従事する」から「事務をつかさどる」になった。共同学校事務室の規程化、さらに事務長・事務主任の職務の改正もあった。また、学校事務職員の受験資格も変わり、学校以外（文部科学省）への異動などもあり、本当にネクストステージという気がする。このネクストステージをどんなステージにするかは、

私たちの実践次第である。

子どもたちの笑顔のため、豊かな育ちのためという目的は教員と同じ。ただ行政としての視点や方法は違うが、できることはたくさんある。自分一人でできることや、すぐにできることはすぐ取りかかる。一人が無理なら、誰かと一緒にやる。教育委員会と連携する必要がある時には、昨年度研修した、学校組織マネジメントの研修・ファシリテーションの研修の手法を活用してみる。また、不破郡が作成した手立て集も使ってみる。総務・財務等の専門職としての持ち味・プライドと意地をもって、活躍してほしい。しかし、ずっと頑張るだけでは疲れてしまう。事務職員の働き方改革も大事。

共同実施や都市の研究会で、お互いの仕事の仕方を参考にし、いい意味で楽をして時間を生みだしたい。

この一年、仲間のネットワークやメリハリをつけた勤務で、子どもたちのためにいい仕事をしていこう。

◇来賓 あいさつ 西濃小中学校校長会 会長 大垣市立東小学校長 高木 勝史 様



管理職として勤務する中で、様々な事務職員に出会った。素敵で優秀な事務の先生のおかげは、職員室が活気あり、電話連絡等も漏れが無い、地域住民から感謝されるものだった。学校における事務職員の存在感を痛感した。学校は校長次第とよく言われるが、実は事務職員次第ではないかとさえ思っている。

事務職員の大きな存在の現われとして、所長も話されたが、職務規定の見直しや共同学校事務室設置など制度が変わり、ネクストステージとして働き方改革に寄与する共同実施がある。チーム学校の一員として、活躍していく基盤形成がされたと思っている。

西濃校長会長として、西濃地区の校長が事務職員に願っていることが三つある。

①先生方とさらに仲良くしていただきたい。

事務職員の当たり前が、教員には想定外であったり、逆に教員の当たり前が、事務職員には、非常識ということがあるかもしれない。せっかく事務職員が、「先生たちが安心して教育に専念できるよう、事務面でサポートしたい。」と思っても、「授業優先、子ども第一」を優先的に考える教員には適切な段取りや手続き、正しい事務処理という点で、感覚がズレてしまう場合があるかもしれない。このように、価値観と優先順位が違う人が一緒にいる状況を前提として、教員の支援者として同僚性を高めてほしい。

②校長と最高のパートナーとなってほしい。

校長と「最高のパートナー」となっていただきたい。もちろん教頭とも。管理職は優秀な事務職員だと心強い。事務職員はいつも職員室に居るからこそ、職員や保護者・地域の情報をたくさん持っている。先生や保護者の方の状況など教えてもらうことで、子どもにかけられる言葉が違ってくる。人・もの・金・時間・情報を事務職員はマネジメントし、校長にとっていい素材を提供していただくことが、校長のマネジメント向上にも繋がると考えている。事務職員の皆さんには、教員の良き支援者として、協力者となっていただければ子どもにも良いのではと思う。

③財務の専門性を活かし、パートナーとして経営に参画していただきたい。

運営委員会や各学年主任等による主任会というものにも事務職員が参画して行ってほしい。主任会に事務職員が出させてくださいと言って、拒否する校長は居ないはず。各主任に伝えることで学年が円滑に動き、学校が変わることもあるのではと思っている。例えば、さしすせそ（さすが、しらなかつた、すごい、センスよいですね、そうですね）のほめ言葉・気分のよい言葉を駆使して、コミュニケーションを図り自分の意思を伝えていくと難しいことがかなうかもしれない。

これからの働き方改革の時代、みなさん事務職員のご活躍と益々この西濃地区公立小中学校事務職員会の発展を祈念して挨拶と代えさせていただきます。

◇議事 議案書どおりに全て承認。

◇連絡

○研修指導委員会

大垣市立北中学校 澤藤かよ子

- ①前年度末「新規採用者研修」を行った。今年度も同様に西濃教育事務所より依頼を受け行う予定。
- ②8月1日午前中に若年層研修会を開催。今年度は「給与」をテーマとした実務研修を行う予定。
- ③会員からの質問窓口と回答の各都市の担当

大垣市は、輪之内中学校の桐山さん、揖斐郡は荒崎小学校の河瀬さん、不破郡と海津市の方は神戸小学校の志邑さんへ、安八郡と養老町の方は大垣・北中学校の澤藤さん。

手引き書や法規等を確認の上、電話ではなく必ずメールまたはFAXで質問する。

質問内容によっては西濃教育事務所へ確認後、回答する。

- ④年度始めの事務手引きの作成と新規採用者の事務手引きの作成

平成30年度版の新規採用者事務手引きは、各都市理事さんに1冊配布・保管をお願いした。

○情報担当委員会

揖斐川町小島小学校 子池 憲幸

- ①西濃事務ネット ユーザー名とパスワードを5月28日より変更。
- ②メーリングリスト 事務職員以外の職員が使用しない・返信ボタンは使わない。
容量の多いファイルは添付しない。
メールアドレスを変更した場合は、小島小学校へ報告すること。
- ③監査を受けたらホームページにアップするので情報提供してほしい。
- ④掲示板は現在閉鎖中

○**県事研理事**

養老町立池辺小学校

藤井 由香

①**県教委・県校長会との懇談について**

日常業務の事務改善のため管外異動者に事務所間の事務処理の違いについて調査。

②**夏季研修会 8/22, 事務の日セミナー10/3 午前午後室長等リーダー研修会 10/3 午後開催**

○**総務部**

大垣市立星和中学校

大橋 麻子

①**会誌の発行は6月下旬 おんさいの発行 年8回**

②**教育表簿について意見があれば県のホームページに書き込むか星和中に連絡**

③**事務日誌の発行 3月予定**

④**県事研ホームページの更新**

○**研修部**

養老町立養老小学校

齊藤 紀道

①**スキルアップ研修 基礎講座Aを7/25, 基礎講座Bを10月上旬予定**

総合講座を12/5開催

②**夏季研修会 8/22 講師 県教委 義務教育総括監 服部先生**

清泉女学院大学 松原教授

○**特別部**

海津市立高須小学校

若原名奈子

昨年度末に岐阜県版学校事務グランドデザインをまとめることができた。

キーワード「ええ顔」があふれる学校づくりができるよう8月の夏季研で提案

○**研究部**

揖斐川町立北方小学校 若山 春樹

①**第5次研究構想の3年目。「チームとしての学校」の実現のためS・M・Dことスクール・マネジメン
ト・ディレクターを目指し、その実現のための手立てを考えている。**

②**県事研評価の“課題別マニュアルの活用”“事務部経営案の作成”“保護者への情報発信”の3つの項
目について達成指標が低い。事務部経営案の作成し、子どもたちのためにできることを形にして宣言し
てもらいたい。**

③**昨年度末に新課題別マニュアル「ステップアップ式課題別マニュアル」が完成した。県事研HPに掲
載されている。8月22日の県事研夏季研修会で、具体的な活用方法を説明する。**